その他

香港における歯周病専門医の育成および認定について

齋藤 淳

東京歯科大学歯周病学講座

(受付日：2016年7月20日 受理日：2016年8月5日)

要旨：この度、香港における歯周病専門医認定試験に外部評価者として参加する機会を得たので、歯周病専門医の育成システムと認定試験の実際について報告する。

日本歯周病学会会誌（日歯周誌）58（3）：155-159, 2016

キーワード：歯周病専門医、認定試験、香港、生涯研修

はじめに

現在、国民の歯科医療に対するニーズの変化とともに、専門的かつ良質な歯科医療の提供が求められており、専門医制度はそれに対応すべく策定されている¹⁾。日本歯周病学会認定歯周病専門医制度は、「歯周病学の臨床的経験を通しその専門的知識と技術を有する歯科医師を育成するとともに、歯周病学の発展および向上を図り、もって、国民の口腔保健の増進に貢献する」ことを目的としている²⁾。現在、歯周病専門医は厚生労働大臣の承認のもと広告可能な5資格のうちの一つであり、国民の認識も高まっている。一方、医科系学会では新しい専門医制度に向けた整備が進められており、歯科医療においても専門医制度のあり方についての議論が始まっている。

このような中、去る平成28年1月26日に、香港における歯周病専門医の認定試験である「College of Dental Surgeons of Hong Kong (CDSHK) Periodontology exit examination 2016」が実施された。筆者はCDSHKのSupervisorであるThe University of Hong Kong, Faculty of Dentistry (HKU 歯学部)のWK Leung教授の要請により、当該試験の外部評価者を務める機会を得た。本稿では、香港の歯周病専門医の育成と認定試験の実際について報告する。

香港における歯科医学教育

The University of Hong Kong (HKU) は1911年に創立され、大学の世界ランキングであるQS World University Rankings 2015-16³⁾で30位に、アジアでは5位にランクされている世界的に評価が高い大学である。HKU 歯学部は、香港で唯一の卒前・卒後歯科医学教育を担う教育機関であり、1982年に正式に設置された^{4,5)}。前述のQS World University Ranking 歯科分野で2016年には第1位にランクされている。1981年に歯科病院であるPrince Philip Dental Hospitalが開設され、HKU 歯学部もそこに設置されている。「To be Asia's leading faculty of dentistry」のVisionを掲げ、世界中から優秀な教員、学生を集めている。HKU 歯学部は年間50人の歯科医師を送り出しており、2015年までの卒業生(学部および大学院)は世界44カ国の出身者を含む合計1,978人に及ぶ⁶⁾。現在、学士課程の歯科医学教育は、修業年限5年から、2012年から導入された6年制への移行途中にある⁷⁾。

2012年時点で、香港には1,900人の歯科医師が登録されており、7割以上が開業医(およびその勤務医)である⁸⁾。歯科医師一患者比は約1対3800であり、人口10万対歯科医師数として換算すると約26.3人である。ちなみにわが国では2012年時点で80.4人となっている⁹⁾。

歯周病専門医の研修プログラム

歯周病専門医(Periodontist, registered in the Specialty of Periodontology)の育成および認定は学会ではなく、「The College of Dental Surgeons of Hong Kong」(CDSHK)という独立した機関が自立性をもって担っている。CDSHKは1993年に設立され、次の3つの目

連絡先：齋藤 淳

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

東京歯科大学歯周病学講座

E-mail: atsaito@tdc.ac.jp

doi: 10.2329/periodo.58.155

図1 College of Dental Surgeons of Hong Kong (CDSHK) の組織図¹⁰⁾

標を掲げている：1. Dental Surgery および関連分野の知識向上を通して公益のために貢献する 2. Dental Surgery の教育や諸問題に関する権威団体として機能する 3. Dental Surgery に関する研修や研究を促進する¹⁰⁾。CDSHK は現在、歯周病専門医を含めた8つの専門医制度を統括し、専門医の認定や生涯研修を行っている。その他、学術大会の開催や奨学金制度の運営なども行っている。CDSHK の組織図を図1に示す。この中の Specialty board が各専門医の認定をはじめとする実務を担当している。

歯周病専門医の研修および認定試験は、CDSHK の「Guidelines for Accreditation and Training in Periodontology」¹¹⁾に基づき、HKU 歯学部と Prince Philip Dental Hospital を中心として行われている。歯学部卒業後、専門医取得までは最低6年間の研修が必要となる(図2)。歯科医師(香港における学士号 Bachelor of Dental Surgery : BDS 取得者またはそれと同等の資格を有する者)は、まず1年間、CDSHK 認定の歯科医療機関で臨床経験を積みながら、所定の講義等を受講し生涯研修単位を取得する。単位がCDSHK に認定されれば2年目から4年目までを認定施設でさらに研修(structured basic training)を積むことができる。現在、この部分の研修はHKU 歯学部が唯一の認定機関となっており、修了者には修士号および Fellow (FCDSHK) が与えられる。ちなみに、海外の機関がCDSHK に申請し、研修内容等が同等であると認められれば、CDSHK 認定機関となることも可能である。

ここまでが Basic Training であり、CDSHK の Intermediate examination を受験し合格すると、次の段階の Higher Specialist Training に進むことができ、5, 6年目の研修を認定施設で受ける。最終的に歯周病専門医と認定されるには、年1回実施されるCDSHK の専門医試験(Exit examination)に合格することが条件となる。これまでに42名が歯周病専門医として認定されている¹⁰⁾。

歯周病専門医試験

CDSHK 歯周病専門医試験は、Specialty Board in Periodontology のメンバーである試験官、Specialty Board が選定した外部評価者、そしてオブザーバーにより実施される。試験日程が決定すると、外部評価者を含めた試験官には事前に受験予定者が提出した資料の写しが配布され、試験官はそれを確認・事前評価し、当日の試験に備える。専門医試験は4つの要素から構成されている(表1)。今回の受験者4名は、1グループ4~5名の試験官(およびオブザーバー各1名)で構成される2つの系列をローテートしながら、計4項目の試験を受けた。事前提出の資料から当日の質疑応答まで、試験は全て英語で行われた。

まず試験官の全体ミーティングがあり、Specialty Board の Chairman である Dr. Gordon Kai Chung Chiu を中心に、当日の流れや注意点が確認された(図3)。この間、受験者は最初の試験である Clinical Case

の準備を行っていた。一人ずつ個室の試験会場に案内され、スクリーンに映し出された症例シナリオ（受験者は初めて見る内容）について 30 分間、質疑応答に備えるための準備時間が与えられた（図 4）。その後、受験者は 2 グループの試験官の系列に分かれ、一人ずつその症例シナリオについての質疑応答に臨んだ。内容は、問題点の提示から診断、治療計画そして治療法と多岐に及んでいたが、特に患者への説明内容について時間を割いて議論がなされていた。

次の Documented Case Review では、受験者が指導医(Trainer)とともに治療を行った 15 症例の詳細な内容について質疑応答が 1 時間行われた。症例は表 2 に示す内容を含むものと指定されている（図 5）。質疑応答は、技術的な事項も含まれていたが、あまり細かい点や知識を確認するのではなく、治療方針の考え方や

患者とのコミュニケーションをいかに行うかが重視されていた。

昼食休憩をはさんで、次に Log book についての試験が行われた。ここでは Documented Case ほど詳細ではないが、事前提出された 25 症例の記録について、1 時間にわたる質疑応答がなされた。多様な症例への対応を通して、受験者の歯周治療に関する基本的な考え方や臨床家としての総合力が確認されていた。

最後の Written Essay は、受験者が選び、試験官が事前に認定したテーマに関する小論文(ミニレビュー)について質疑応答が 30 分間行われた。関連知識や小論文のまとめ方、文献引用の適切性などについて審議された。

全ての試験が終了すると試験官全員が集まり、試験の総括と合否判定が行われた。筆者は実際に試験官として各試験項目で質問を行うとともに、試験全般について、さらに試験官の対応などについても外部評価者としての意見を求められた。その後、外部評価者としての評価レポート（個別の受験者の概略評価および試験全体の評価）をまとめ、提出した。なお、今回の試験結果としては、1 名が Written Essay の修正・再提出を求められ保留となり、他の 3 名は合格であった。

4 名の受験者のために、ほぼ 1 日を費やして行われた試験であったが、特に受験者に対して適切かつ公平な試験の実施に心が配られていると感じた。海外から外部評価者を招聘することもそれを担保するために必要と認識されている。また、試験官と受験生は真剣なやり取りの中にも笑顔を忘れず、和やかな雰囲気のもと質疑応答が行われていたことも大変印象的であった。緊張している受験者を安心させて、本来の実力を発揮してもらおうとする姿勢が感じられた。

これまで CDSHK 歯周病専門医試験の外部評価者は、欧米の歯周病専門医が招聘されてきたが、今回は

図2 歯周病専門医取得までの研修過程 (Training pathway)

表1 CDSHK 歯周病専門医試験 (Exit examination) の構成

項目	内容	時間
(受験者 1 名につき)		
1. Clinical Case	試験会場に用意された症例シナリオについての質疑応答	準備 30 分 試験 30 分
2. Documented Case Review	受験者が事前提出した詳細な症例記録 (15 症例) の評価と質疑応答	1 時間
3. Log Book	その他の症例記録 (25 症例) の評価と質疑応答	1 時間
4. Written Essay	受験者がテーマを選択 (事前承認が必要)、執筆したミニレビューの評価および質疑応答	20 分

図3 試験官およびオブザーバーの事前全体ミーティング

図4 Clinical Case のシナリオ提示

日本からの参加であった。歯周治療を含む歯科治療は香港では、基本的にすべて自費であるという環境の違いはあるが、歯周治療へのアプローチや使用材料についての考え方はわが国の標準的なものに近いと感じた。

おわりに

試験官の一人に、なぜ、香港の歯科医師は長い研修期間と厳しい試験がある歯周病専門医の資格を目指すのかと尋ねてみた。「それは歯科医師としての自らの努力の証であり、専門医としてプライドをもって歯周治療を行えるからである」との回答があった。これは日本でも同じであり、あらためて専門医取得の意義について考える機会となった。今回の認定試験そして翌日行った HKU 歯学部での講演を通して香港の歯学部学生や教員、歯科医師と議論をするなかで、彼らのレベルの高さや国際性を実感した。これまで日本歯周病学会は 1,051 名の専門医、224 名の指導医（平成 28 年 3 月 31 日時点）を世に送り出し、国民の口腔保健の向上に大きく貢献してきた。今後、海外の専門医や学会とも切磋琢磨しながら、さらなる高みを目指していくこ

表2 Documented Case Review の要件

1. 侵襲性歯周炎
2. 慢性歯周炎
3. 宿主応答に問題がある歯周炎患者
4. 歯周一歯内病変、矯正治療、小児歯科、補綴治療に関連した歯周治療
5. インプラントとそのメンテナンス

以上の内容を含めた 15 症例について、指定の様式で事前提出する。

図5 Documented Case の提出資料の例

とが必要であると思われた。

謝 辞

専門医試験についてご指導をいただいた HKU 歯学部および CDSHK Specialty Board in Periodontology の各位に深謝いたします。

今回の論文に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

文 献

- 1) 一戸達也：専門医制度，日本歯科医学教育学会白書作成委員会，歯科医学教育白書 2014 年版，日本歯科医学教育学会，東京，2015，146-150.
- 2) 特定非営利活動法人日本歯周病学会：特定非営利活動法人日本歯周病学会認定歯周病専門医制度規則 http://www.perio.jp/member/certification/special/file/Specialist_Rule.pdf (参照 2016-07-05).
- 3) Quacquarelli Symonds: QS World University Rankings® 2015/16 <http://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2015> (参 照

- 2016-07-06).
- 4) Davies WIR, Corbet EF, Chiu GKC: Dentistry's development in Hong Kong. *Int Dent J*, 47: 137-141, 1997.
 - 5) Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong: Studying Dentistry in Hong Kong. An introduction to being a dentist in Hong Kong & Training at the HKU Faculty of Dentistry. 2nd ed, 2014<http://facdent.hku.hk/docs/DentistryinHK.pdf> (参照 2016-07-05).
 - 6) Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong: Faculty Factsheet, 2015http://facdent.hku.hk/about/doc/Factsheet_English.pdf (参照 2016-07-05).
 - 7) Faculty of Dentistry, The University of Hong Kong: Regulations and Syllabuses for the degree of bachelor of dental surgery (6-year), 2012http://facdent.hku.hk/learning/ug_info/BDS%20Reg%20&%20Syll%202012.pdf (参照 2016-07-05).
 - 8) Chu CH, Wong SSS, Suen RPC, Lo ECM: Oral health and dental care in Hong Kong. *The Surgeon*, 11: 153-157, 2013.
 - 9) 厚生労働省：歯科医師受給問題を取り巻く状況（第1回歯科医師の需給問題に関するワーキンググループ資料1. 平成27年2月24日）<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000075061.pdf> (参照 2016-07-05).
 - 10) The College of Dental Surgeons of Hong Kong<http://www.cdshk.org/index.php> (参照 2016-07-05).
 - 11) The College of Dental Surgeons of Hong Kong: Guidelines for Accreditation and Training in Periodontology 2000 <http://www.cdshk.org/spec/Perio/Training%20Guidelines.pdf> (参照 2016-07-05).

Periodontal specialist training and accreditation in Hong Kong

Atsushi Saito

Department of Periodontology, Tokyo Dental College

(Received: July 20, 2016 Accepted: August 5, 2016)

Abstract: An overview of specialty training and accreditation system in periodontology in Hong Kong is presented, through the experience of serving as an external examiner of the College of Dental Surgeons of Hong Kong Periodontology exit examination 2016.

Nihon Shishubyo Gakkai Kaishi (J Jpn Soc Periodontol) 58 (3): 155-159, 2016

Key words: periodontal specialist, board certification, Hong Kong, continuing education

Corresponding author: Atsushi Saito

Department of Periodontology, Tokyo Dental College

2-9-18 Misaki-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0061, Japan

E-mail: atsaito@tdc.ac.jp